

平成13年1月31日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

市指定史跡武蔵御嶽神社の建築群

平成12年、市指定史跡武蔵御嶽神社境城内の大口真神社おおぐち まがみしゃの表門が、工学博士白井裕泰先生の監督・指導のもとに復原された。

この建築物は、明治10年頃修築されていたが、その後の災害により倒壊したままになっていたもので、白井先生の精密な復原図のもと幸信工務店の高橋棟梁によって進められた。この機会に、白井先生より伺った当神社の建築上の文化的価値について、備忘のために報告したいと思う。

1 その全体的な価値

ア 当神社の史跡内の建築物は、その全体として「江戸時代の神社建築群」として大切なものである。

イ 本殿（明治10年）、旧宝庫（明治39年）を含めると、江戸～明治期の建築群といえる。

ウ 神社とその御師の集落が、一つのものとして今にその形をとどめていることの重要性も忘れてはならない。

2 さまざまな神社建築様式（建物ごとに）が用いられていて、この建築群によって神社建築様式のほとんどを観察することができる。

ア ときわかきわしゃ 常盤堅盤社（旧本盤） 〈昭和27年11月3日、都有形文化財に指定〉

建長11年（1606）建立、数度の修理が行われている。一間社流造 桧皮葺型銅板葺

イ すめみまのみことしゃ 皇御孫命社

建立年代は19世紀前期と考えられる。一間社入母屋造 千鳥破風・軒唐破風付瓦棒銅板葺

同表門

一門一戸 棟門 銅板葺

ウ 拝殿・幣殿

排殿 桁行5間 梁行4間 入母屋造 向排1間唐破風造 桧皮葺型銅板葺

幣殿 桁行2間 梁間正面1間背面3間 両下造 桧皮葺型銅板葺

エ おおぐち まがみしゃ 大口真神社

建立年代は19世紀中期と考えられる。一間社流造 瓦棒銅板葺

オ 神門

明治10年頃修築 三間一戸八脚門 入母屋造 桧皮葺型銅板葺

カ 八柱社

大正14年建立 八間社流れ見世棚造 銅板葺

他に旧宝庫、神明社、巨福社、北野社、疫神社、稲荷社、三柱社、東照社、二柱社等は、省略。

(文責 金井 國俊)